

会議名	第3回赤坂・青山シニアファッションista事業運営業務 委託事業候補者選考委員会
開催日時	平成30年2月13日(火) 14時00分～15時30分
開催場所	赤坂地区総合支所2階 中会議室
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・赤坂地区総合支所長 森 信二 ・赤坂地区総合支所協働推進課長 山田 吉和 ・赤坂地区総合支所まちづくり担当課長 重富 敦 ・赤坂地区総合支所管理課長 櫻庭 靖之 ・赤坂地区総合支所区民課長 阿部 徹也
事務局	赤坂地区総合支所協働推進課地区政策担当
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 第二次審査について 2 事業候補者の決定について 3 今後のスケジュールについて
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1 第二次審査の方法について ・資料2 第二次審査表 ・資料3 第一次審査集計表 ・資料4 一次審査の意見まとめ
会議の内容	
A事業者	<p>【1 第二次審査について】</p> <p>(A事業者のプレゼンテーション 以下、概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤坂地区は、長く在住している方や、お出かけスポットが多いという点に注目している。そういった特性を活かし、おしゃれも含めた、いきいきとしたライフスタイルを実践している地域の方のインタビューや、おでかけ情報を提供することで、できるだけ多くの高齢者がまちに出るきっかけづくりとする。 ・誌面デザインは、肩肘の張らない自然体のものにする事で身近な情報誌として手に取ってもらいやすくする。また、サンプル記事についてはインタビューをした方の雰囲気が伝わるよう、口語体で読みやすくしている。 ・一方的な情報発信にならないよう、アンケートなどで読者の声を聴き、誌面に反映する。

B 委員	<p>それでは、質疑応答を行います。</p> <p>ファッションには関心が低い方や、心身の状態により外出も難しい方もいると思う。そういった方も含めて、生きがいを持ってもらうような企画としてはどのように考えているか。</p>
A 事業者	<p>外に出なくても、自宅で出来るケアや出張サービスなどでメイクや写真を撮ったりすることも考えられる。やはりそうして鏡を見るとうれしそうにしているし、必要に応じ、そういった情報も提供していきたい。</p>
B 委員	<p>赤坂・青山らしさを住民や場所ではない方法で表現することは可能か。</p>
A 事業者	<p>やはり赤坂・青山らしさを一番表現できるのは長くこの地に住んでいる人だと考える。</p>
C 委員	<p>ファッションの敷居を低くするというコンセプトは良いが、より多くの人に見てもらえるためにどういった工夫が考えられるか。</p>
A 事業者	<p>これまでの実績もそうだったが、ファッションが好きで頑張っている人ばかり紹介すると、そうではない人から拒否反応が出てしまう。むしろ身近なところで「これくらいなら私もできる」「こういった風に考えればいいのか」と思ってもらえるような人にフォーカスしたい。</p>
C 委員	<p>3年間事業を実施するとして、その間でどのように情報誌を浸透させ、レベルを上げていくか、工夫はあるか。</p>
A 事業者	<p>一方的に発信するのではなく、フィードバックを受けてそれを蓄積しながらレベルアップしていくようにしたい。</p>
D 委員	<p>個人情報の保管方法について具体的に教えてほしい</p>
A 事業者	<p>原則、電子データのやり取りは行わず、取得した写真などは報告書として区に提出する。また、廃棄した際には廃棄した旨の証明書を出すなどしたい。</p>
E 委員	<p>ライターやカメラマンなどのスタッフとは、事業や記事のコンセプトをどう伝えるのか</p>
A 事業者	<p>これまでの成果物などを共有しながら、ミーティングを行う。また、60 歳代のライターであり、コンセプトの理解度が高いと考えている。最終的には自分が総括的なチェックを行う。</p>
E 委員	<p>コーナーの企画はどういった人が行うのか</p>
A 事業者	<p>基本はスタッフ全員でアイデアを出すのが、企業とのコミュニケーションは編集アシスタントとライターが行う。また、人に関する内容は区や商店街等、様々な方や団体とコミュニケーションしながら企画したい。</p>
E 委員	<p>これまで担当した業務の中で、ライフスタイルに共感した、感銘を受けたという高齢者の方はいるか。</p>
A 事業者	<p>若いころから、ずっと何か続けていることがあるという人もいるが、一方で70 歳を過ぎてからトライするようになったという人もいた。そういった人の話を聞くととてもすごいと感じるし、若い人のみならず、同年代の方も頑張ろうと思ってもらえるのではないかな。</p>

A 委員	連続性のある企画という話があったが、具体的にはどのようなものか。
A 事業者	毎号中身が変わるのではなく、記事の構成などを統一して作成する事を想定している。
A 委員	現在取材先として予定している企業はあるのか。
A 事業者	想定している企業はいる。
A 委員	そういった企業とはネットワークを有しているという認識で良いか。
A 事業者	ある程度はあるかと思う。全ては把握しきれていないので、商店街や区の協力を得たいと思う。
A 委員	発行スケジュールについて、4～6月は準備で7月発行ということだが、その点はこういった想定でいるのか。
A 事業者	最初なので、区と何を伝えたいのか、しっかりとすり合わせを行って準備する必要があると感じている。そのため、取材等の時間を加味して提案したスケジュールとなった。 (質疑応答 終了)
	2 事業候補者の決定について
A 委員	事務局から採点結果の報告をお願いする。
事務局	A 事業者 第一次審査 396 点、第二次審査 184 点 合計して 580 点です。
A 委員	審査結果を受けて、各委員から講評をお願いする。
B 委員	これまで当事業に携わっていたこともあり、一言で言うと安定感がある。本日は一人しかこなかったが、誠実さをしっかりと感じられた点からも、事業候補者として選定することは問題ない。予算の限りなどあるので発展性や目新しい企画はまだ見られないが、地域の方のインタビュー記事を通じていきがづくりを推進するという提案なども評価でき、今後事業を行っていく中で幅広い提案がみられるかもという気がした。 ただ、個人情報管理や取材先の選定が区任せにならないかという心配がある。
C 委員	受託実績があるので安心して任せられるであろうというのが全体的なところ。ただ、企画において特筆するところはこのからは見られなかったが、3年間の中で、アンケートなどを活用して読者の声を誌面に反映していくところは評価できる。責任者のやる気も感じられた。
D 委員	今後に期待。3年間の実績があるので安定性はあると思う。独自性や創造性があまり感じ取れなかった。個人情報の回答も最初から踏み込んだ回答が欲しかった。
E 委員	これまでやってきた事業者ということで、地域特性も理解しており、事業趣旨や高齢者のいきがづくりについて十分にやってもらえる安定性がある

A 委員	<p>事業者であると思った。誌面作りについては、デザインに優れていて、口語調という点や文字の大きさなどなども読みやすい。質問の中で高齢者に共感できる記事が印象に残っているという回答で、別の高齢者のいきがいくりになる「明日を生きる力」を引き出すという部分を十分理解していると思った。</p> <p>特出的なことは企画で見当たらなかった。同じ3年間同じ誌面を出しても大した効果はないので、やり方を検討していく必要がある。これまで関わりのある団体に協力を得る必要がある。事業については理解している。誌面も見やすい。表紙の案に男女両方を入れているのもよい。男性は特にこういう情報に興味がないことが多いが、それでも興味のある男性がいるところが赤坂・青山の特徴でもある気がする。</p> <p>3 今後のスケジュールについて</p> <p>今後の契約スケジュールについて確認した～詳細省略～</p> <p>【閉会】</p>
------	---